

「予測困難な時代」を生きる子供たち
 生産年齢人口の減少、グローバル化、
 技術革新、社会構造・雇用環境の激変
 「Society5.0」

新学習指導要領の理念

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して
 行動し、実現する。 ⇒ 「生きる力」

目指す児童像

自他尊重の心を持ち、主体的に学び続ける児童

河辺小「建学の理念」
 『自主創造』

本校の教育目標

○ねばり強い子ども

健康で明るい心身を目指し、目標をもって根気強く努力する（自主性）

○すすんで学習する子ども

基礎的・基本的な学力を身に付け、試行錯誤をしながら、課題解決に取り組む（調整力）

○仲良くする子ども

自らを肯定的に捉え、他者を尊重し、認め合い支え合う人間関係をつくる（自他尊重の精神）

学校経営方針（目指す子供像を実現するために）

「向上心」とその基盤となる「自己肯定感」を育む

全ての教育活動の
 目的はここにある！

向上心：よりよい自分・学級・学校を目指す気持ち

向上心が表れる姿＝「一人一人が輝く」

「自己の成長を目指し、生き生きと活動する姿」

- ・児童「今までの自分よりも一歩でも前進しよう」
- ・教職員「教育活動改善を目指して不断の改善に努める」
- ・学校の「向上しよう」とする姿勢で保護者・地域の信頼を得る

自己肯定感：「ありのまま」の自分を認め、自信をもてること

自己肯定感を高められる学校＝「楽しい学校」

「ありのまま」を受け入れ、認め励まし、ほめて伸ばす
 成長を支える環境」

- ・一人一人の児童の「ありのまま」を受け入れ、ほめて伸ばす
- ・教職員一人一人が、自身の力を十分に発揮できる環境づくり
- ・保護者や地域に教育活動の意義を発信し、理解・協力を得る

「どうせ、自分なんて...」
 「やってもできない...」
 「自信がない...」
 「失敗したらどうしよう」



「やればできる」
 「自分には価値がある」
 「挑戦してみよう！」
 「失敗してもまた頑張ればいい」



目指す学校像

一人一人が輝く、楽しい河辺小学校

学校経営方針 具現化のための4つの柱・12の取組

柱1 学力向上と主体的な学びの推進

- ①「学ぶ楽しさ」を味わえる授業の追求
- ②基礎的・基本的な学力の定着
- ③学習環境の整備・活用

柱2 豊かな心の育成

- ④信頼関係の構築
- ⑤人権教育の推進と規範意識の育成
- ⑥自ら考え、行動する主体性の伸長

柱3 特色ある教育活動の充実

- ⑦体育・健康に関する指導、体験的活動の充実
- ⑧青梅学の推進
- ⑨個に応じた支援の充実

柱4 家庭・地域との連携

- ⑩学校からの情報発信の充実
- ⑪丁寧かつ組織的対応の徹底
- ⑫教育活動を通じた連携強化

＋ 「学校教育における喫緊の課題」への対応

- ・教員の資質向上（研修機会の充実）
- ・働き方改革（タイム・パフォーマンス）
- ・コロナ禍での知見を活かした教育課程の見直し（カリキュラム・マネジメント）

令和6年度のテーマ

成長 ~Improve~

子供一人一人の成長はもちろん、教職員として学校組織として、保護者・地域を含む「学校」として成長を図る。

